

4. 画像の内容検索

(マルチメディアデータベース序論, 全6回)

<https://www.kkaneko.jp/de/multimedadb/index.html>

金子邦彦



Content-Based Image Retrieval

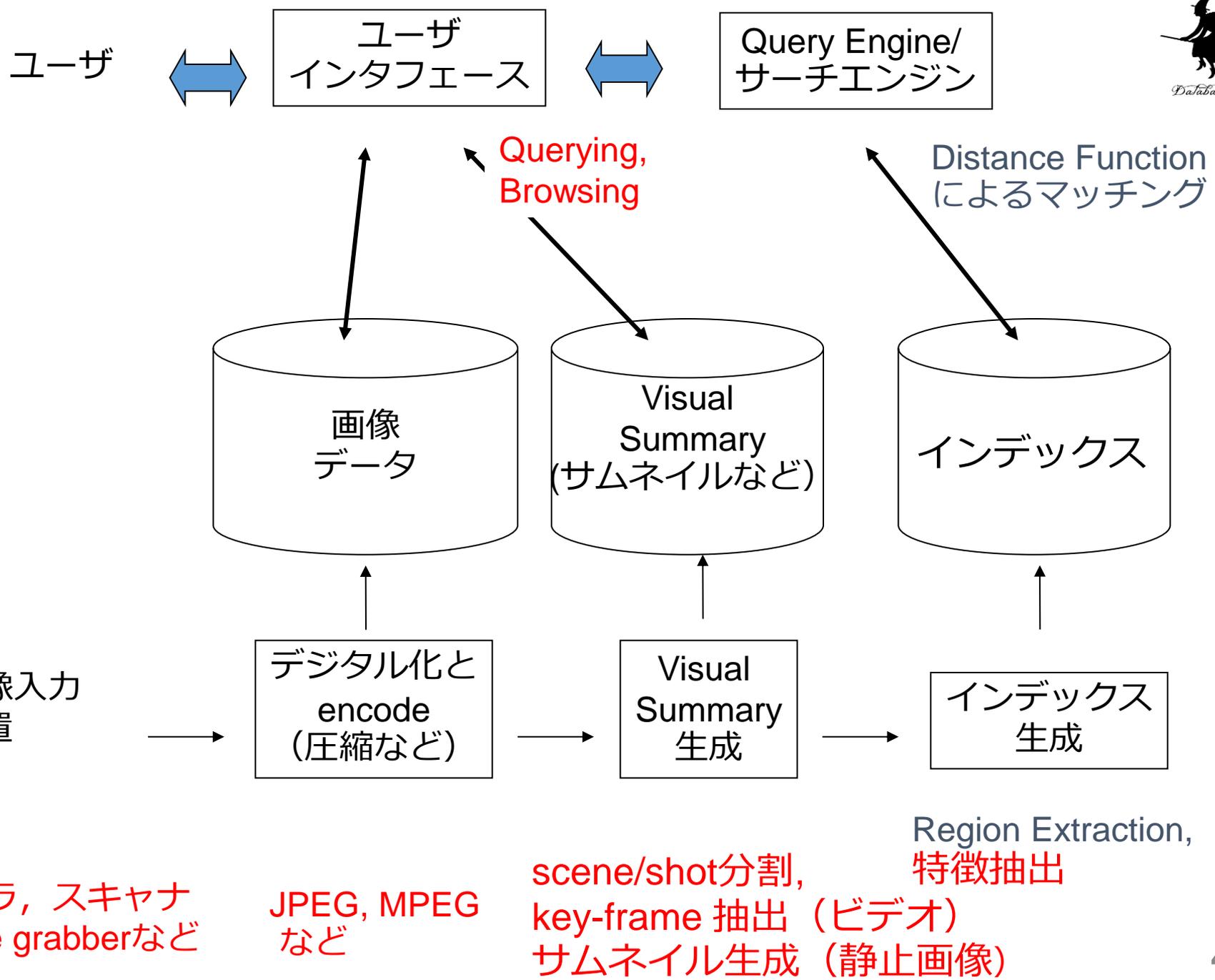


- 画像（静止画像／ビデオ）の「内容」による検索
 - 検索条件
 - Perceptual property
 - Color, Texture, Shape
 - Spatial Layout, Motion Feature(ビデオ)
 - Semantic Primitives
 - Objects, Roles, Scenes,
 - Subjective Attributes
 - Impressions, Emotions

静止画像の Perceptual Property



- Visual property
 - Color
 - Texture
 - Shape
 - Motion Feature
- Spatial Layout
 - 位置(absolute position)
 - 大きさ (size)
 - 関係(spatial relationship) : 相対的な位置関係



カメラ, スキャナ
frame grabber など

JPEG, MPEG
など

scene/shot 分割,
key-frame 抽出 (ビデオ)
サムネイル生成 (静止画像)

Region Extraction,
特徴抽出

Query by Perceptual Properties



- Perceptual property
 - (例) ビデオから「赤」が50%のcutを探せ
 - (例) 「丸いもの」が写っている画像を探せ

Query by Spatial Layout

- Visual property

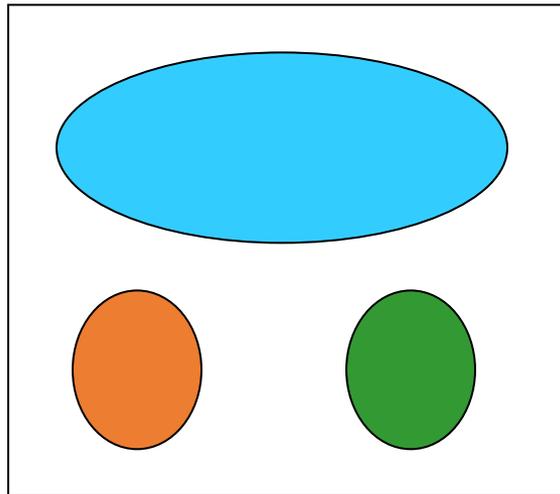
- Color

青、緑、水色

- Spatial Layout

- 位置(absolute position)

左下、右下、上



Query by 'X'



- an Image Example
 - ユーザが例示画像を与える。最も似た画像を探す
- a Visual Sketch
 - ユーザが「欲しい」画像のスケッチを書く
- a Specification of Visual Features
 - Perceptual Properties を直に記述する
- a Keyword or Complete Text
 - データベース内の画像すべてに、あらかじめキーワードを（人手で）つけておく

Content-Based Image Retrieval での Query Engine/ Search Engine



- ユーザは, 自分の「見たい」画像について：
 - うまく記述できない
 - 「見たい」ものが何かを決めていない（偶然の発見を楽しむ）ことさえある
- 解)
 - 画像データを「分類」しておいて, 似た画像をグループ化しておく
 - ユーザに見やすく表示.
 - ユーザにとっては, 「余分な画像」が表示されないの
で便利

Content-Based Image Retrieval での Query Engine/ Search Engine



- 検索の精度の向上
- 解)
 - 画像を, 題材によって階層的に分類しておく
 - ユーザは, 自分の欲しい画像のカテゴリ (「動物」, 「ネコ」, 「風景」など) を探した後に, そのカテゴリ内で検索
 - ⇒ 検索範囲は, データベース全体でなく, 限定された部分. 検索の精度が上がる

Features



- Low-level Feature:
 - 既存の image processing, computer vision の技術で抽出できる
 - color, texture など
- Middle-level Features:
 - 技術の確立には至っていない
 - 登場物の形など
- High-level Features:
 - 人手が必要
 - Semantic Primitives, Subjective Attributesなど

「色」と「色分布」

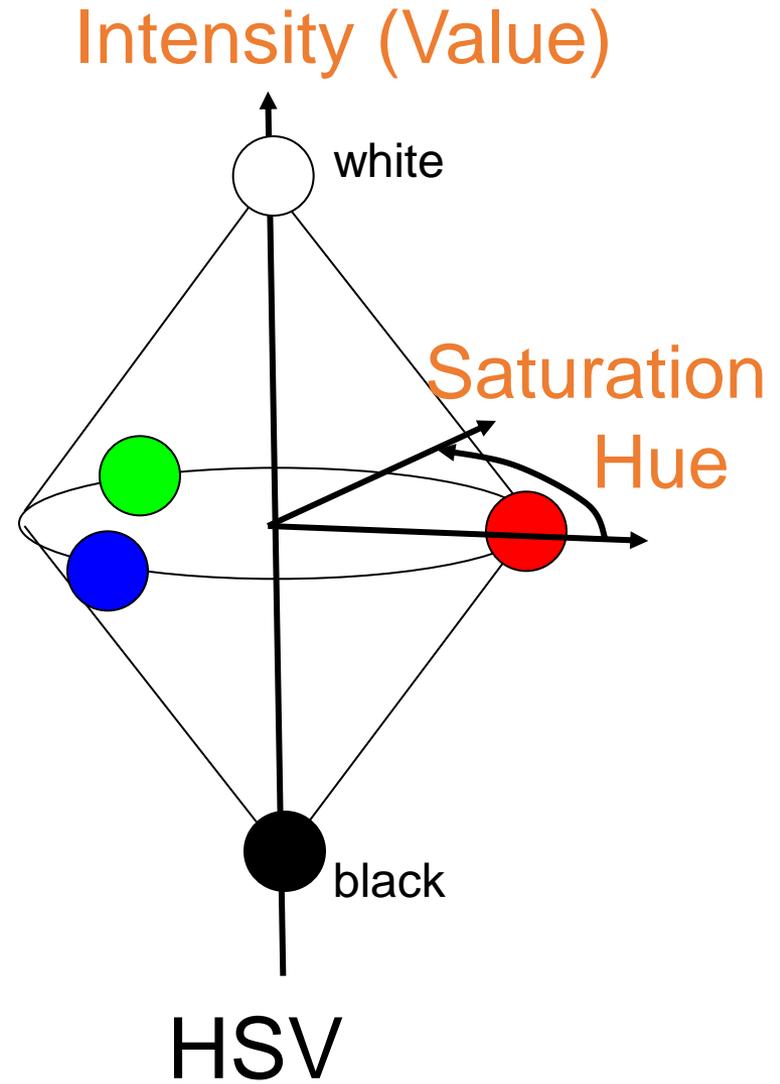
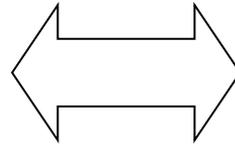
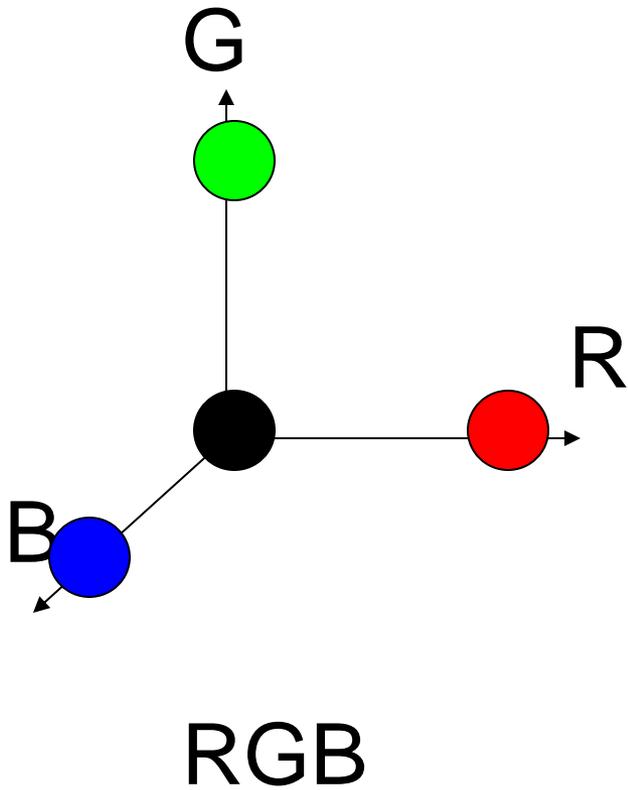


- Regional Color
 - 「画素」や「ある部分」の色のこと
 - 例) この部分は「深い緑色」である
- Global Color
 - 画像全体の色分布のこと
 - 例) この画像は、およそ50%が青で、30%が黄色
- 色と色分布は区別する

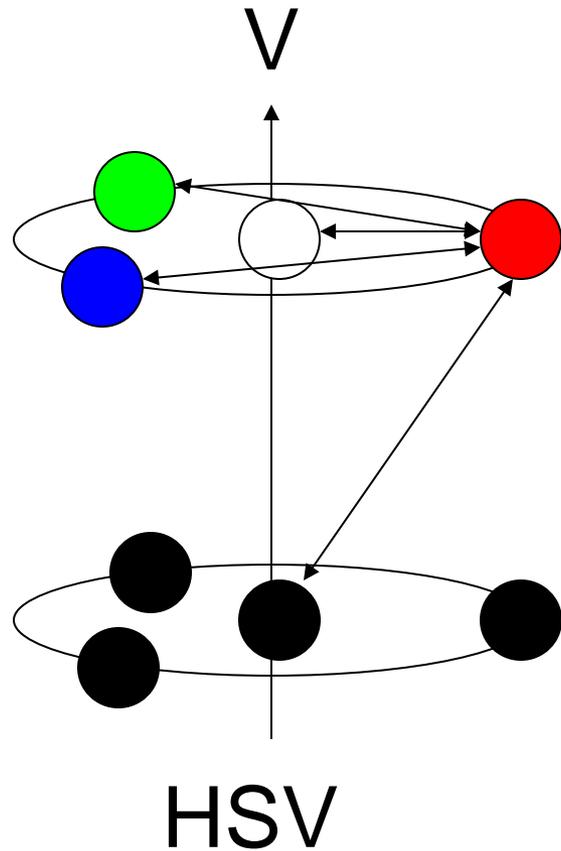
虹の七色

名前	英名	波長範囲
		770 nm
赤	Red	
		645 nm
橙色 (オレンジ)	Orange	
		580 nm
黄色	Yellow	
		550 nm
緑	Green	
		490 nm
青	Blue	
藍 (インジゴ)	Indigo	
		450 nm
紫	Violet	
		360 nm

HSV と RGB



色の HSV 表現での距離



円筒空間での
距離

CIE 表色系



- CIEは「国際照明委員会」のこと
 - RGB系, XYZ系, UVW系, LAB系を提案
- R, G, B の加法混色で表色できないスペクトルがある
 - 実験では, 550nmより波長の短い緑色や青色のスペクトルの色は, R, G, B をどんな割合にしても表色できない
- スペクトルに無い光の色を, RGBの混合で作ることができる
 - 赤紫色

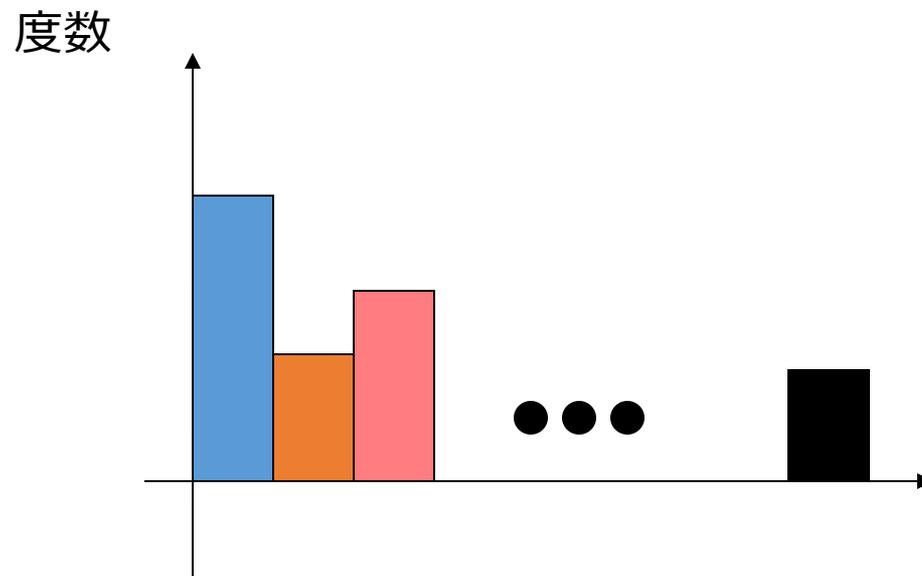
L* a* b* (エルスター、エースター、 ビースター) 表色系

- L軸: 明るさ (Lightness)
- a*軸: の+側は赤領域、-側は緑領域
- b*軸: の+側は黄領域、-側は青領域

カラーヒストグラム



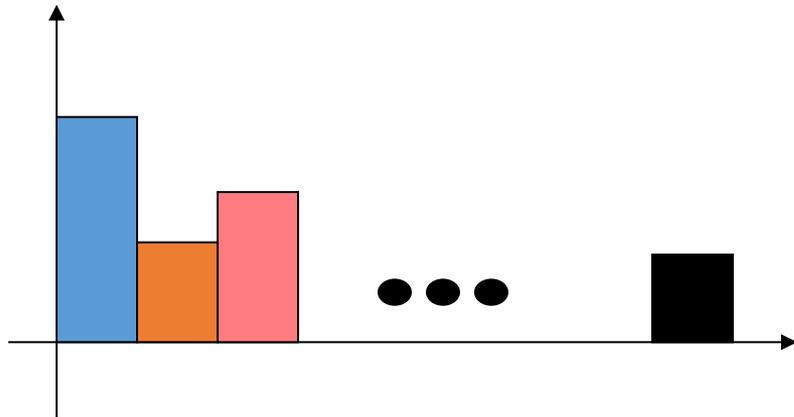
色分布を表現する手法の1つ



カラーヒストグラムのマッチング

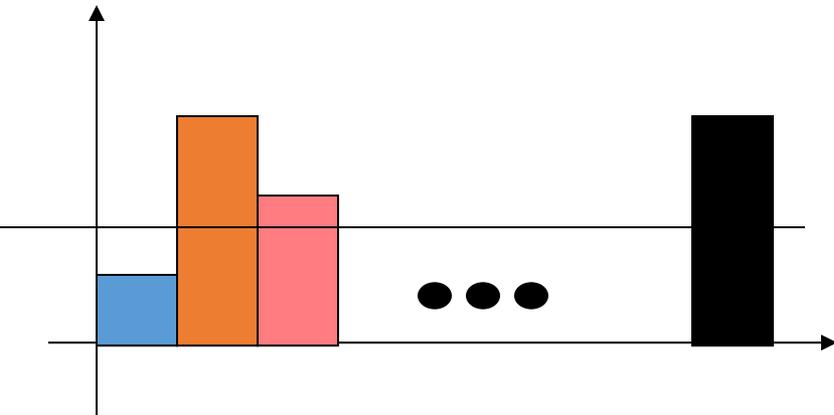


カラーヒストグラム c



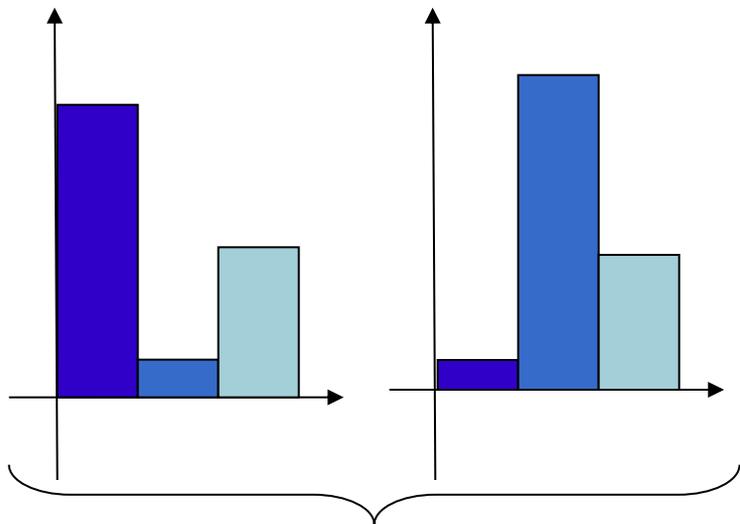
2つのカラーヒストグラムの
マッチングには,
2つのベクトル間の
距離関数を使う

カラーヒストグラム t



ユークリッド距離

$$\sum_i^N (c_i - t_i)^2$$



ユークリッド距離は遠いが、
実際には似ている

色の correlation を考慮した 距離の例

$$\sum_i^N \sum_j^N \mathbf{a}_{ij} (c_i - t_i) (c_j - t_j)$$

\mathbf{a}_{ij} : 2つのヒストグラムの
 i 番目の色と,
 j 番目の色の類似度

$$0 < \mathbf{a}_{ij} < 1$$

カラーヒストグラムのコンパクトな表現



- 「0/1」 のベクトル表現
 - カラーヒストグラムから、しきい値を使って、「0/1」のベクトルを求める

